

平成25年度 有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究

| 教員名 | 研究課題 |
|-----------------|--|
| 堤 裕昭・一宮睦雄・小森田智大 | 諫早湾における海水流動の変化が有明海奥部海域の環境と生態系に及ぼす影響の評価 |
| 堤 裕昭・小森田智大 | 菊池川干潮域の生態系再生に関する研究 |
| 堤 裕昭・小森田智大 | 緑川河口干潟に優占するホトトギスガイの分布と新規加入に適した環境要因の解明 |
| 堤 裕昭・小森田智大 | 緑川河口干潟に優占する二枚貝類ホトトギスガイ (<i>Musculista senhousia</i>) の個体群動態と河口域の物質循環過程の定量化 |
| 堤 裕昭・小森田智大 | 緑川河口干潟に優占するハマグリ (<i>Meretrix lusoria</i>) の生活史特性と個体群動態 |
| 堤 裕昭 | アサリの種苗稚貝生産技術の開発 |
| 堤 裕昭・小森田智大 | マイクロバブル発生装置の開発とクルマエビ養殖場の水質環境の改善 |
| 小森田智大・堤 裕昭 | 諫早湾調整池からの排水が湾内の物質循環に与える影響の解明 |
| 小森田 智大 | 都市型河川の河口域における酸素消費速度の定量化 |
| 井上昭夫 | 未利用バイオマスの資源量推定に関する研究 |
| 井上昭夫 | 生活細胞一定の法則に基づく自己間引きの法則の再検討 |
| 井上昭夫 | 早期森林資源利用診断システムの開発 |
| 井上昭夫 | 阿蘇を構成する植生の蒸発散の比較研究：草原の維持は水資源涵養に寄与するか？ |
| 一宮睦雄 | 八代海におけるノリ色落ち原因有害プランクトンの出現動態および生活史の解明 |
| 一宮睦雄 | 自立安定したアサリ資源回復のための干潟再生技術の開発 |
| 一宮睦雄 | 有害赤潮プランクトン・シャトネラの摂餌による赤潮の発生・維持機構の解明（代表） |
| 一宮睦雄 | 海洋生態系を支える微細藻類：珪藻の起源・繁栄の謎を未知の藻類：パルマ藻から解き明かす（分担） |
| 石橋康弘 | バイオマス燃料の継続性及び事業性の評価に関する研究 |
| 石橋康弘 | 食品廃棄物や家畜排せつ物等からのメタンガス発酵等の利用について |
| 石橋康弘 | 微生物資材の微生物組成及びPCB分解の可能性に関する基礎的研究 |
| 石橋康弘 | 蘇地域におけるバイオガス発電事業のコストシミュレーション |
| 小林 淳・小森田智大 | 河口域における残留性有機汚染物質の循環とそれが沿岸生態系に与える影響の定量的評価 |
| 小林 淳 | 海産ゴカイ類への消化管経由でのPFOSの移行動力学の解明（分担） |
| 張 代洲 | い草の粒子吸着効果の検証 |
| 張 代洲 | 東アジア広域に拡散するスス粒子の変質と光学的特性 |
| 張 代洲 | 黄砂粒子に付着している細菌の定量分析同定法の確立 |
| 張 代洲 | 個別粒子分析による九州西岸と中国東部自由対流圏のPM2.5の比較 |
| 松添直隆 | 有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業の創出に向けたアオサ類肥料化の検討 |
| 松添直隆 | 阿蘇地域における降水特性ならびに降雨時における水田が河川状況に与える影響 |

申請した外部資金

| 教員名 | 研究課題 |
|-----------------|---|
| 堤 裕昭・小森田智大 | 二重渦式旋回流マイクロバブル発生装置を用いたエビ類養殖場の環境管理 |
| 堤 裕昭・小森田智大 | 河口域に生息するヤマトシジミ資源保護のための食性に関する研究 |
| 堤 裕昭・一宮睦雄・小森田智大 | アサリの種苗生産技術開発 |
| 井上昭夫 | 水資源保全のための林分密度管理図の調製 |
| 井上昭夫 | 地下部現存量のStatic WBEモデル |
| 一宮睦雄 | TSA-FISH法の可視化によるピコ真核藻類：パルマ藻の現場動態・生活史の解明 |
| 一宮睦雄 | 八代海におけるノリ色落ち原因有害プランクトンの出現動態および生活史の解明 |
| 一宮睦雄 | 干潟域に分布する底生珪藻の現存量と群集構造の季節変動 |
| 小林 淳 | 残留性化学物質の生物濃縮の種間差は脂肪含量だけで説明できるのか |
| 小林 淳 | 魚種横断的な新規生物蓄積予測モデルの開発 |
| 張代洲 | 越境ヘイズと黄砂に伴うバイオエアロゾルに関する精細調査 |
| 松添直隆 | 底面給水型水耕栽培装置を用いた作物の蒸発散モデル構築に関する研究 |